

2027年度日本数学会出版賞の推薦募集について

理事長 石毛 和弘

20世紀以来著しい進展を遂げた数学の研究には我が国の数学者も大きく貢献しており、本会も我が国における数学研究の環境整備に努めてまいりました。ところが、数学が高度に専門化したため、数学の果たす重要な役割が一般の方々はもとより、理科系の専門家にも理解されているとは言い難い状況があります。

一方、数学の魅力を巧みに伝える一般向け啓発書が出版されるという誠に喜ばしい事例も昨近相次ぎみられ、本会としましては側面から応援したいと考えております。また、数学諸分野の有機的連携を図り、自然科学、社会科学との協力関係を促進するためにも、数学の魅力や目覚ましい発展の真髄を他分野の専門家のみならず一般にも判りやすく伝える数学者の努力も奨励したいと考えております。

そこで、本会では「出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰」するために、日本数学会出版賞を設けて2005年春に授賞を開始しております。つきましては、下記の推薦要領を参考にご推薦頂ければ幸いです。

なお、これまでに、次のように日本数学会出版賞を贈呈していることを申し添えます。

(敬称略, 順不同)

2025年度

- NPO 数学みえる化プロジェクト

(授賞理由) 数学みえる化プロジェクトは、2018年に数学的現象を体感する勉強会として北海道大学の教員らを中心に始まった。2022年夏には、北海道大学総合博物館の夏季企画展に関連する書籍として「感じる数学—ガリレイからポアンカレまで—」(共立出版)が出版された。また、展示内容をわかりやすく解説するYouTubeチャンネル「感じる数学 Tangible Math」も開設された。以降、このプロジェクトは各地で展示や講演を行い、活動の幅を広げている。現在では「NPO 数学みえる化プロジェクト」に活動が引き継がれ、数学やその関連分野の普及活動が継続されている。書籍やYouTube動画などの本プロジェクトに関連する一連の著作は、数学の普及活動への貢献が大きく、日本数学会出版賞にふさわしい。

- 服部久美子著『数学のための英語教本—読むことから始めよう』(共立出版, 2020年)

(授賞理由) 数学で使われる英語は簡単だと言われるが、日常では出会わない数学特有の表現や、数学そのものの難しさも相俟って、英文のテキストや論文を読むことは初学者にとっては敷居が高く、また文法を誤ることで数学的に全く異なる意味に誤読してしまうことも少なくない。本書は著者が学部2~3年生を対象にした「数学英語」の講義をもとにしたもので、初学者が英語のテキストや論文に負担なく向き合えるように、数学のテキストを読んだり英語論文を書いたりする際に注意すべき文法やよく使われる表現がコンパクトにまとめられている。国際的な科学コミュニケーションの

必要性が高まる中で、本書は英語によって数学や科学を正確に理解、発信することの重要性を再認識させる良書であり、数学の国際的な普及に大きく貢献するものである。

- 野口潤次郎

(授賞理由) 野口氏は多変数解析関数論、複素解析幾何学を専門とし、これまでに数多くの専門書を執筆している。多変数関数論は岡潔によって理論の根幹となる様々な研究がなされた。野口氏は岡潔の数学を現代数学の中で学生たちにも理解が届くような形で根付かせようという熱意のもとで、「多変数解析関数論—学部生へおくる岡の連接定理」や「岡理論新入門—多変数関数論の基礎」などの書籍を岡潔の数学への深い理解と敬愛の念のもとで執筆している。このように多変数関数論を専門とする数学者の立場から岡潔の数学と多変数関数論の社会的認知・普及・整備に貢献し、また独自性の高い著作を意欲的に上梓しており、その功績は日本数学会出版賞に相応しいものである。

2024 年度

- 細木周治

(授賞理由) 細木周治氏は長年にわたって裳華房の数学書の企画・編集に携わり、「数学選書」、「数学シリーズ」を筆頭に多くのロングセラー教科書を手掛けるとともに、工学系の数学教科書の刊行にも尽力した。細木氏が世に送り出した数学書の数々は、出版から時間の経った現在でもその多くが名著として読み継がれ、大学の専門課程や教養課程での数学教育を支え続けている。こうした細木氏の功績は数学研究の進展と、数学教育の基盤の確立に大きく寄与するものであり、日本数学会出版賞にふさわしい。

- エンツェンスベルガー著『数の悪魔 — 算数・数学が楽しくなる 12 夜』(晶文社, 1998 年)

(授賞理由) 本書では「数の悪魔」が読者を数の不思議な世界へと誘い、算数・数学嫌いの子供や大人でさえもその世界に引き込まれていく。初版から実に 59 刷を数えることから、広く一般読者に受け入れられていることがうかがえる。年少者への配慮を十分に行いつつも本格的な数学の内容を扱っていることが特徴の一つである。例えば、0 と 1 から始まる数の構成、有理数と無理数、数列の極限、数学における証明とは何か、多面体のオイラーの法則など、数学の入門段階での要点の数々を提示し、それらについて読者が楽しく理解を深められるように構成されている。本書の数学の普及への貢献は顕著であり、日本数学会出版賞にふさわしい。

2023 年度

- 岡本健太郎著『アートで魅せる数学の世界』(技術評論社, 2021 年)

(授賞理由) 美しい図版に溢れた魅力的な本である。数学の世界には視覚的に美しいものが数多く存在する。本書は視覚をきっかけとして数学の世界に存在する興味深い対象を紹介する著作で、各対象の背景にある数学的な内容を、まったく手を抜かずに、しかもわかりやすく解説する姿勢が貫かれている。さらに折り紙と関連する作業や、表

計算ソフトを用いたグラフィックの演習など、単に見るだけではなく読者が自ら数学の対象を観察し、考えることができるような工夫がなされている。五感を通して数学を楽しむ機会を提供する良書であり、数学の普及に大きく貢献するものと期待される。

- 飯高茂

(授賞理由) 飯高茂氏は代数幾何学に関する本格的な教科書や入門書を執筆し、その分野の研究と教育において大きな役割を果たすとともに、数学を専門としない一般の読者にも楽しめるような書籍を執筆し数学の普及に貢献してきた。また、様々なシリーズの編集にも携わっており、その中の一つであるシリーズ「数学のかんどころ」は素朴な話題から専門的な対象までを取り上げ、数学ファンから専門的な数学を学び始めた学生まで幅広い層に向け、読者を引き込む工夫がなされた優れた書籍を多数刊行している。飯高氏の長年にわたる精力的な出版活動による数学の研究・教育・普及への寄与は出版賞に値するものである。

- 梅田亨

(授賞理由) 梅田亨氏による日本語の単行本には、月刊誌「数学セミナー」の連載から生まれた「徹底入門 解析学」、「森毅の主題による変奏曲(上)(下)」の他に、放送大学のテキスト「代数の考え方」がある。いずれの著作も啓蒙的である一方で、読み物としての魅力にも溢れている。教科書でとり上げられる内容を扱ってはいるが、そこには独自の切り口による警句が満ちている。「連続関数のリーマン積分可能性には一様連続性が必要」だという〈迷信〉についての「歴史的」考察はその一例である。「思う存分時間をかける贅沢を味わってほしい」との意図のもとに書かれた、決して単純に「わかりやすい」わけではない本によってこそ伝えられる数学の醍醐味もある。梅田氏の著作は、学生のみならず広い分野の理系の研究者、そして数学ファンにとって貴重な資料であるだけでなく、研究・教育の道標であり、学問の深い喜びまでも提供してくれる。また共著「ゼータの世界」や共編著「多変数超幾何関数」などの著作活動を通して、梅田氏の数学の教育・普及への貢献は大きく、出版賞に相応しいものである。

2023年度より前の情報は、<https://www.mathsoc.jp/interested/pubprize/> をご覧下さい。

2027年度日本数学会出版賞の会員による推薦を次の要領で募集します。

2027年度日本数学会出版賞の推薦要領

1. 趣旨 出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰
2. 対象 著作物、もしくは著作物等の著者、編集者、制作者、出版者などの個人または団体。
 - (1) 特定の著作物等のみならず、個人・出版者等による普及活動全般も対象とします。
 - (2) 個人に授賞する場合は、授賞発表時点での存命者に限ります。
 - (3) 「著作物等」には、書籍、雑誌、ビデオ、DVD、電子媒体等を含みます。論文は研究業績を顕彰する他の賞の対象でもありますので、原則として対象とは致しません。
 - 著作物等の場合に想定する対象としては、数学専門家向け書籍・雑誌、数学専攻大学院生向け専門書、学部学生用教科書、大学生・高校生・中学生・小学生等を対象とする啓発著作物等、非数学者向けの専門書籍・雑誌、一般を対象とする啓発著作物等が考えられますが、これら以外でも、賞の趣旨に適うものが推薦されてくれば審査対象とします。
 - 和算関係の著作物等も対象とします。
 - 著作物等の場合、原則として日本語によるものを対象としますが、日本人著者による外国語でのオリジナルな著作物等や、日本語による著作物等を翻訳して世界に普及させたものも対象とします。
 - 日本語への翻訳著作物等も、訳者、編集者、出版者を対象とします。
 - 著作物等の場合、審査時点で入手可能なもののみを対象とします（推薦時に現物を提出する必要はありませんが、選考委員会が推薦者に対して審査対象著作物等の一時貸与を御願いする場合があります）。
3. 推薦件数等 他薦（各会員毎の件数は問わない）
4. 推薦書類 A4版用紙2枚以内に、次の事項を御記載下さい。
 - ① 推薦者氏名、数学会会員番号、連絡先住所、電話番号、電子メール宛先。
 - ② 特定の著作物等に関して推薦して頂く場合には、顕彰すべき対象と著作物等の書誌事項（著作者名・翻訳者名等、著作物等題名、出版者等名称、出版年、その他）。
 - ③ 編集者・制作者・出版者等に関してその活動を推薦して頂く場合には、その対象名と顕彰対象とすべき具体的事項。
 - ④ 推薦理由。
5. 推薦書提出締切 2026年6月26日（金）（必着）
6. 推薦書提出宛先 〒110-0016 東京都台東区台東1丁目34-8
日本数学会出版賞選考委員会 宛

2027年度日本数学会出版賞推薦書

必ずしも本書式を使用しなくて結構です。他薦する候補ごとに、下記の必要事項をA4用紙2枚以内に御記載下さい。

推薦書提出締切 2026年6月26日（金）（必着）

推薦書提出先 〒110-0016 東京都台東区台東1丁目34-8
日本数学会出版賞選考委員会

推薦書記載事項

(1) 推薦者の情報

① 氏名 ② 数学会会員番号 ③ 連絡先住所 ④ 電話番号 ⑤ 電子メール宛先

(2) 他薦する候補（件数は問いません。推薦要領を御覧下さい。）

- 特定の著作物等の場合

① 顕彰すべき対象

② 著作物等の書誌事項（著作者名・翻訳者名等、著作物等題名、出版者等名称、出版年等）

- 編集者・制作者・出版者の活動の場合

① 顕彰すべき対象名

② 顕彰対象とすべき具体的事項

(3) 推薦理由

これまでの受賞者 当会ホームページをご参照ください。

<https://www.mathsoc.jp/interested/pubprize/>